

開催日:2024年10月20日(日) 18:00~20:00

Zoomによるオンライン会

参加者:清水(49C)、阿部(修 46 S)、佐野(62W)、奥山(52E)、松永(47C)、二宗(46M)

以上は東海連合支部で、以下は他支部

荒井(修 46C)、松原(修 56C)、倉林(44C)、田辺(49P)、久保(49E)、岩木(49L)

福島(修 50C)、金井(修 46C)、田野崎(52K)、澤木(49E)、小西(修 49C)、

森口(50E)、中村(修 54C)、小林(H4E)、笠谷(H18C)、斎藤(56S)、星野(修 56C)

合計 23名

この会も31回目となり、最近では関東から四国までの支部の会員で毎回20数名の方々が参加している。参加者は現役の人や会社を退社して第2の人生を送っている人と様々であるが、共通して言えることは、皆さん元気でポジティブな人が多い。

毎回参加者の中から、皆さんに聞いてほしいテーマについてプレゼンしてもらっている。

そろそろ2巡目に入ってきて、今回は愛知支部の清水さんに話してもらったことになった。

清水さんは自分がプレゼンするという事で、寮時代の友達に声をかけた結果、3名の初参加者があった。こういう風に「草の根」的に参加者も広がってきている。



今回のプレゼンテーマは「ヒマラヤ展望ハイキング体験談」であり、この旅行に参加した動機やツアーの様子を次のように話してくれた。

23年2月に激しいめまいに襲われ救急車で病院、病院の薬が効いてその後のめまいはなくなった。

9月初めに北アルプスの登山に参加したとき、雨と重い荷物がこたえ、下山で大幅な時間がかかり、体力の限界を感じた。しかし1日で約1000m登れたというかすかな自信も持てた。

もう一つは、コロナで4年近く海外旅行に行っていないこと。



ダージリンに、向かう途中

これらの二つからこのツアー参加を決意した。

飛行機を乗り継いでインドに入り、四輪

駆動車でダージリン(標高2134m)さらにサンダクプー(標高3636m)まで移動。次の日は早朝から朝日に照らされて空に浮かぶ8000m級の山々を撮影。車で移動し、草原の丘も散策。



ダージリンのホテルから

次の日も凍り

付いた岩山の展望台からエベレストなどの山々が見えたのは幸運。

旅行から帰った後、写真集を作成して参加者に配ったり、旅行中に知り合った人(日本人、インド人)との交流が始まった。

またこれからの体力維持のため、国内近場を中心に毎週1回を目指して山歩きの訓練を続けている。



ヒマラヤの三座